

寄居城北高校での活動

「よりの」の会では、活動の一環として、寄居城北高校で朗読の指導を月に2回行っています。指導を受けるのは、JRC部（ジュニア・レッド・クロス＝青少年赤十字）の皆さん。JRC部は福祉活動ボランティアを中心に活動し、これまで交通安全PR用品の配布や募金活動などを行ってきました。部に所属



する皆さんは医療や福祉に関する職に就きたいと考えている方が多く、将来に生かせる部活動としてJRC部を選んだといえます。

田中翔さん（2年・本庄市）は「小・中学校と、障害のあるクラスメイトと友達でした。障害があるからといって特別ではなく自分にとっては普通の存在。しかし、この部活動を選んだのはその友達の影響もあります」と話してくれました。

また、海老原愛翔さん（1年・末野4）は「将来は看護師になりたいと思っています。この部活でのボランティアを通して、高齢の方や障害のある方と関わっていくことで目標とする看護師に近づけると思いました」と話してくれました。

朗読の指導は、まず発声練習を行い、教材となる物語を一人ずつ読み上げていきます。「よりの」の会は、生徒の朗読に対し、朗読ならではの読み方（十頭は「じつとう」等）や言葉のイントネーション、間の取り方など、表現の方法について細かく指導を行っていました。

VOICE /



JRC部 部長
小澤日和さん
(3年・秩父市)

普段と違うイントネーションや発音で気を付けなければいけないところがたくさんあって、朗読の難しさを知りました。この活動をするまで、障害のある人のために活動してくださっている方々がいることを知りませんでした。このような活動は障害のある方々にとって、とてもありがたいことだと思います。また、わたしたちもその活動に関わることができて、とてもよい経験になっています。

VOICE /



JRC部 顧問
大澤篤史 先生

この活動のきっかけは寄居町社会福祉協議会で室岡さんとお会いしたことでした。頑張れば高校生でもできるようになるのではないかと思います、朗読の指導をお願いしました。先生方に教わるうちにだんだんと朗読ボランティアの活動の大切さが、わたしも生徒も分かってきました。今は、将来何らかの場面で役に立つことができないかなという気持ちで朗読の練習をしているところです。生徒には、この部活動を通して障害者の方やボランティアの仕事に触れ、実際にやってみることでたくさんの経験を積んでもらいたいと思っています。